

映像を起点とした探求学習のすすめ

「自ら学び行動につなげる 先生のためのSDGs講習会」を開講しました！

三井住友信託銀行では2012年より、環境専門のインターネット放送局グリーンTVジャパン、SDGs TVを運営する株式会社TREEと協働し、次世代を担う子供たちに向けたESD（持続可能な開発のための教育）プロジェクトに取り組んでいます。

第13回目となるESDプロジェクトは、神奈川県内の教職員を対象に、SDGsをテーマに主体的・対話的で深い学びを実践するための学習とは何かについて考える「先生のためのSDGs講習会」を開講しました。

SDGsとは

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されており、「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」をスローガンに、発展途上国から先進国まで一体となって積極的な取り組みを進めています。



SDGsを取り入れた授業の実践について学ぶ

2019年8月20日（火）、鎌倉未来ラボ（旧村上邸）にて、神奈川県立高校および中学校の教職員22人を対象にしたESDプロジェクトを開講しました。これは、「持続可能な社会の担い手づくり」のため、教職員の皆さまにSDGsを取り入れた授業の実践について、一緒に考えてもらう初の試みです。

当日は、神奈川県教育委員会の皆さま、SDGs.TVの水野雅弘氏をファシリテーターに、県下の取り組みや教育現場における普及啓発の意義について、講話と映像で解説いただきました。



生徒の自立的・主体的な学びのために



その後、生徒の学びを自立的・主体的に発展させるにはどうしたらよいか、何が必要か等について問題提起し、ワークショップを実施しました。

ワークショップは4～5人の班に分かれ、「社会・経済・環境の統合解決」をテーマに達成したいビジョンを決め、それに必要な具体的なSDGsアクションと、社会・経済・環境へのインパクト（プラス/マイナスの影響）は何かについて、ディスカッションをしました。

各班は、「ジェンダーフリーの学校づくり」、「フードロスをなくす」「交通事故0社会」、「自ら学ぶ生徒・学校づくり」等のビジョン達成のために何が必要か等、活発な意見交換を行い、その成果を発表しました。

今回の講習会を通じて、教職員の皆さまには、SDGsの目標は身近な社会的課題に結びついていること、その解決には様々なアプローチの仕方があることを体感してもらうことができました。

これから、学校現場には「総合的な探求の時間」が設けられ、生徒たちはより広い視野をもって物事を主体的に学ぶ姿勢が求められることとなります。このESDプロジェクトを通じて、次世代を担う子供たちがSDGsを身近に感じ、持続可能な社会とは何かについて考え、具体的な取り組みをはじめてもらうきっかけになれば幸いです。



三井住友信託銀行では今後も、SDGsの推進、ESD（持続可能な開発のための教育）の推進に努めてまいります。